



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hovukai.org/>

第163号

発行:2019年11月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

急性期病院における診療放射線技師の役割

～ 最新の医療機器を駆使し、より良い画像の提供を心掛けます ～

湘南泉病院 放射線技師長 並 浩二



平成26年2月に放射線科の責任者として入職し、6年を迎えました湘南泉病院 放射線技師長 並 浩二と申します。診療放射線技師としては25年が経ちます。今後も微力ながら鵬友会一員として経験を活かし努力して参りたいと思います。現在、当院の診療放射線技師は男性5名、女性2名、計7名にて業務を行っております。私たち診療放射線技師の業務は、一般の方からの認知度が低く院内でも目立たない職種です。そこで、診療放射線技師の業務について説明いたします。

診療放射線技師とは、「医師又は歯科医師の指示のもと検査や治療に必要な放射線を人体に照射できる資格を与えられた職業」で医療で用いられる放射線にはX線、 α 、 β 、 γ 線、中性子線、重粒子線などがあります。X線はレントゲン撮影、CT検査、透視検査、マンモグラフィ検査、骨密度検査等に使用されます。また、 α 、 β 、 γ 線、中性子線、重粒子線などは放射線治療などの核医学検査に使用されます。

当院の診療放射線技師は、主にX線を使用した一般撮影（レントゲン）検査、CT検査、透視検査、マンモグラフィ検査、骨密度測定検査、放射線を使用しない磁石と電磁波を使用したMRI検査を行っています。一般（レントゲン）撮影は健康診断などの胸部撮影や、骨折が疑われる患者の骨の撮影など一番馴染みのある検査です。CT、MRI検査は体を輪切りにし、体内の変化を描出して診断を行います。透視検査は、バリウムを使用し胃や大腸の撮影を行ったり骨折時の整復や内視鏡検査の時などにも使用します。マンモグラフィは乳がん等の検査、骨密度は骨粗鬆症の検査に使用します。その他にも様

々な検査を行います。当院の医療機器は全てが6年未満の最新医療機器で、総合病院に匹敵する装置です。私たちは、この様な最新機器を使用し業務が行える事を誇りに思います。

また、診療放射線技師は検査、撮影以外に医療被曝線量の低減及び管理も重要な業務の一つです。東日本大震災による福島原発事故以来、一般的に放射線被曝が注目されるようになってきました。医療現場においても徐々に被曝に対する指標が厳しくなり来年4月からは医療被曝線量の管理、記録が義務化されることになりました。今後は、低線量、低被曝に努め安全安心な検査を常に心掛けて業務を行わなければなりません。

【急性期病院に求められる診療放射線技師】

現在、医療は著しく進歩し、20年前の診療放射線技師が行っていた業務は殆ど無くなりました。以前は、「医師の指示通りレントゲン写真を撮影すれば良かった」時代でした。医療の進歩は、私たちの業務内容も変化させました。例えば、フィルムから液晶画像に変化、CT検査では1つの断面しか撮影出来なかったことが、1つの断面撮影からあらゆる方向の断面画像に再構成できるようになりました。MRI検査も1.5Tから2倍の3Tの磁波強度になり各段に画質が向上しました。他にも例えを挙げれば限りがありません。特に急性期病院では医療の変化を身をもって実感します。

今後、我々診療放射線技師が急性期病院である湘南泉病院において求められることは、日々研修研鑽し医師の意図した検査を行い、画像所見を的確に判断出来る放射線医師のような画像のスペシャリストになれるよう努力することだと考えます。

令和元年度

鵬友会合同 看護主任研修を開催しました。R1.11/16 (土) 湘南泉病院 会議室



池島 常務理事

令和元年11月16日(土)9時~15時、鵬友会各施設の看護主任の方々が参集し、鵬友会合同看護主任研修が行われました。

まず初めに池島常務理事の講話の中で、看護主任に期待することとして、①「理念・目的・目標」の理解・共有②メンバー相互の強い「信頼関係」③「情報の流動性」の幅広い共有④問いかけによる「思考の深掘り」⑤思い切った「権限委譲」⑥すぐれた「リーダーシップ」についての6項目に分けて具体的な例を挙げながら述べました。

続く、新中川病院片桐看護部長より、「多様性の中、看護主任(看護管理者)の人間性について考える」をテーマに、【看護チーム力アップと問題解決の7つのスキル、看護管理者の人間性について、事前の自己評価票(看護管理能力を発揮するために必要なスキルと行動特性)の結果による分析、看護管理と組織開発】について、具体的な状況を交えながら説明しました。

前半最後には、湘南泉病院 坂本看護主任より、認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修の報告がありました。

後半のグループワークでは、個々の課題となっていることを皆でディスカッションし、解決に向けての学びを深めました。



片桐 看護部長



全体風景



【グループワーク】



【グループワーク】

◆◆◆ 第38回 神奈川県病院学会 ◆◆◆ R1.10.16

神奈川県立かながわ労働プラザを会場に開催された第38回 神奈川県病院学会において、新中川病院の：田口 和代 看護師(発表者)・高橋美仁 看護師長(協力者)が、2年間にわたり病棟で患者様の安全な環境に関する内容をテーマに看護研究に取り組んだなかで、実際に起きたインシデントを用い、スタッフ全員で話し合いをもち、危険に対する意識を高めた内容を『チューブ類抜去減少に向けた取り組み～インシデントKYTを活用して～』というタイトルで研究発表を行いました。



左から、田口 和代 看護師、高橋 美仁 看護師長